

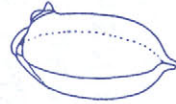
【3】浸種（水浸し）

- ① 水量は種子量の2倍以上、浸漬水温は12～15℃とし、時間をかけて吸水させましょう。
- ② 浸漬時間は積算温度で120℃を目安に行いましょう。
- ③ 水の交換は最初の3日間を行わず、それ以降は1～2日ごとに静かに行いましょう。

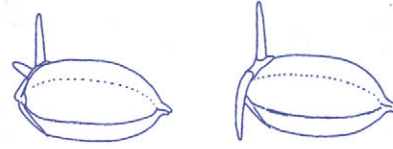
【4】催芽（芽だし）

催芽温度は28℃とし、袋の内部まで均一になるようもみを薄く広げましょう。

正しいハト胸催芽（星川）



正しいハト胸催芽



伸ばしすぎ

※酸素・水・温度の3要素が揃わないと、均一な催芽はできない。

【5】は種作業

苗の種類に見合ったは種量を厳守し、厚播きにならないように均一には種することが重要です。

もみ枯細菌病対策

- ① 種子消毒済みの購入種子の場合でも「塩水選」は必ず行いましょう。
- ② 床土のpHは4.5～5.5にしましょう。
- ③ 催芽や出芽は28℃以下の温度で行いましょう。
- ④ 育苗中の温度管理に留意し、ハウス等の内部温度は28℃以上の高温多湿条件にならないようにしましょう。

薬剤処理の例（消毒済み種子の場合）



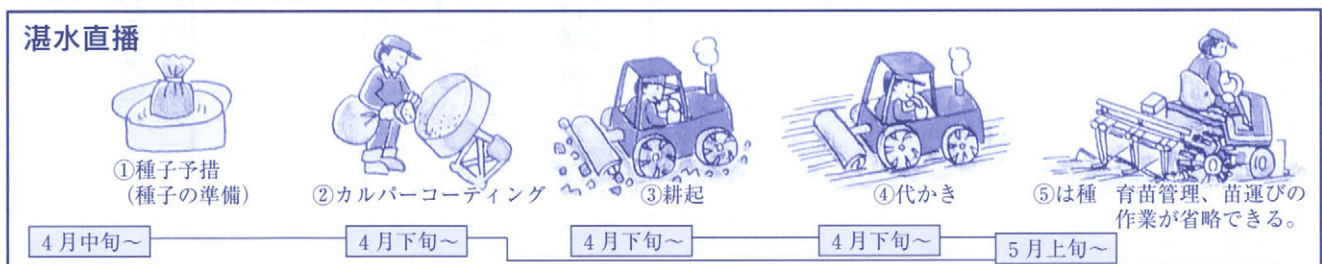
※ 浸種期間中の水交換は、浸種開始後3日間を行わず、その後1～2日の間隔で静かに水を交換し、酸素不足がないようにする。

※ 本県産購入消毒済み種子について、「もみ枯細菌病」の種子消毒を行う場合には、「スターナ水和剤」による湿粉衣を行う。〔銅イオンを含む製剤（テクリードCフロアブル・モミガードC水和剤など）は「ヘルシードTフロアブル」の成分であるチウラム成分と反応して効果が低下するので使用しないこと〕

2. 水稲直播栽培の生産安定は、出芽・苗立ちの確保がカギです

1. ほ場の均平：ていねいに代かきを行い高低差を±2.5cm以内にする。
2. 湛水直播：
 - ① 出芽勢を高めるため、塩水選を必ず実施する
 - ② ひとめぼれの浸種は他の品種より1～2日長めに行う。
 - ③ 種子をカルパー粉粒剤でコーティングする。
 - ④ 出芽・苗立ち率の向上のためカルパーコーティング種子の加温処理（25℃で2昼夜）を行う。
 - ⑤ は種深度を1cm程度の深さにする。
 - ⑥ は種後は、出芽始めまで7日程度落水状態を保ち、出芽・苗立ちを促進させる。

は種までの作業行程



※ 直播栽培の実施については、各直播栽培支援センター（JA）、農林事務所へお問い合わせください。